

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回鴻巣市シティプロモーション推進懇話会
開催日	令和5年8月31日(木)
開催時間	午後2時00分 開会 ・ 午後3時30分 閉会
開催場所	鴻巣市にぎわい交流館 2階多目的室
出席者(委員)氏名 (出席者数)	齊藤 哲也(アドバイザー) 亀谷 礼子 清水 千之 久保 泰枝 松岡 洸太 伊藤 恵 澤田 稔行 長谷 英里子 天野 雄大 (9名)
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	真鍋 透 斎藤 徹 山崎 益美 (3名)
事務局職員職氏名	市長政策室総合政策課長 富田 真久 総合政策課主査 小林 裕 総合政策課主事 松崎 葉月
傍聴者の可否(傍聴者数)	可(0名)
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 意見交換 <ol style="list-style-type: none"> ① シティプロモーションの推進における成果指標と達成状況について ② 令和5年度シティプロモーション推進事業の進捗状況について 5 その他 6 閉 会

会議の内容

○資料1「鴻巣市シティプロモーション推進懇話会設置要綱」に基づき懇話会の概要について、事務局から説明した。

○資料2「成果指標と達成状況」について、事務局から説明し意見交換が行われた。委員からの主な意見は次のとおり。

- ・mGAP について数値をどう上げるかではなく市民の皆様が体感としてシティプロモーションが進んでいることを感じられることをゴールに。
- ・奇をてらった活動ではなく地道な活動の積み重ねが地域のブランドになるのでは。
- ・mGAP について地域感謝意欲量が高いのは良いことであり市への期待値が高いということ。参加意欲・推奨意欲についてはコロナ禍であったことも寄与しているのではないか。
- ・市内の3駅乗車数は約3万人、アピールの場として有効。
- ・「どう伝えるか」の方法を考えることが先行してしまうが「何を伝えたいか」「コア」はどこかを考える。

○資料3「進捗状況」について、事務局から説明し意見交換が行われた。委員からの主な意見は次のとおり。

- ・NOSU・LABのメンバーについてこれまでの参加者は30~40名程度おり、各回10名程度が参加している（アドバイザーからの質疑に事務局が回答）。
- ・体感としてシティプロモーションが進んでいると感じるにはイベントへの参加者が増えることが一番。鴻巣市は年間を通してイベントも多く地域的なポテンシャルは高い。
- ・イベントへの参加者、市民からの声・ニーズをSNSへのコメント等からも吸い上げていく必要がある。
- ・のすばの開催に向けて地域の事業者とかかわる中でやりたいけど場所がないなどの声が上がった。「やりたいと思っているけど自分では気づいていない」人もいる。
- ・イベントにはマンパワーが必要。市内の県立高校生の力を借りてみては。若者による体験に勝る発信力はない。
- ・SDGsと若い人の相性は良い。若い人と話すと余程考えている。18歳以下の若い人の意見も積極的に耳を傾ければ、小さなことでも形になるのでは。
- ・「子育てを終えた女性」「小学生」もパワーを持っている。活躍してくれるのでは。
- ・シティプロモーションは様々な場所ですでに取組まれている。把握の仕方、吸い上げをして行政のシティプロモーションと絡めていく必要があるのでは。

○事務局より

次回の開催は1月。欠席者に合わせて土日も含め日程を検討している。

配布資料	<ul style="list-style-type: none">• 懇話会委員名簿• 第1回鴻巣市シティプロモーション推進懇話会次第• 資料1 鴻巣市シティプロモーション推進懇話会設置要綱• 資料2 成果指標と達成状況について• 資料3 令和5年度事業の進捗状況について• 第6次総合振興計画後期基本計画• 鴻巣市シティプロモーション推進方針• にこのすパンフレット• IKOKAInstagramフォトコンテストパンフレット• こうのすLIFE• 鴻巣市シティプロモーションパンフレット
------	--